



発行

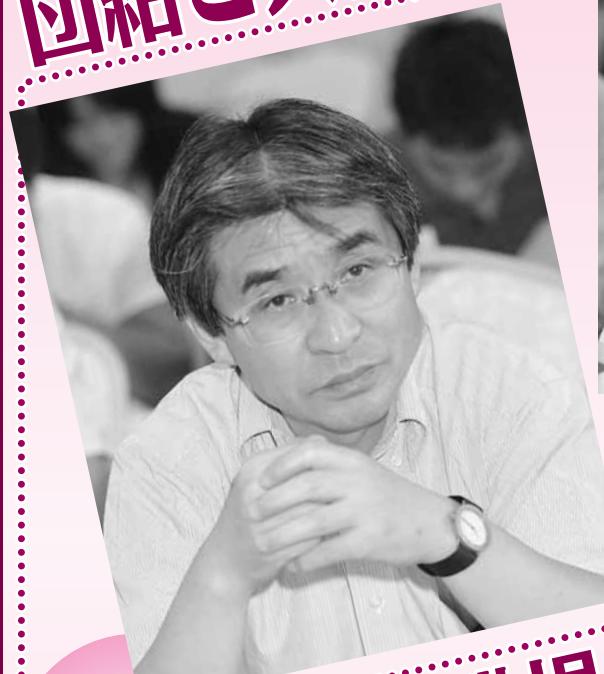
自治労連

大阪自治体労働組合総連合 2005年9月15日 No.200

発行人 町田 豊治／編集人 樋口 和弘  
〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15大阪グリーン会館4F ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206  
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp  
URL: http://www.osaka-jichiroren.jp

平成2年9月12日第3種郵便物認可 毎月15日発行（一部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

# 団結と共同をひろげ



# くらしと平和をまもる たたかいを職場、地域から

## 大阪自治労連第18回定期大会

大阪自治労連第18回定期大会が、9月16日、大阪市内の天満研修センターで開催された。活発な討論で、たたかう運動方針が確認された。総選挙で多数を占めた小泉内閣は、憲法改悪、増税と社会保障改悪、給与構造見直し、働くルールを破壊する労働法制改悪など、さらなる攻撃を加えようとしている。今後、団結を強め、共同を広げながら奮闘することを誓った。



職場はいま「大東市で自転車置き場管理人分会結成」(2・3面)/現地ルポ「10・2堺市長選挙」(4・5面)/自慢の一品「タコス エル ノバル」(6面)/さわやかな風「わいわいサミット実行委員会事務局長 萩野 豪さん(堺市職労)」(8面)



今月号の  
紙面から

9月2日行われたプレ企画の学習会



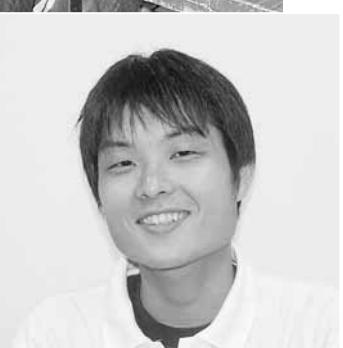
### ふだんできない体験が

今回は環境問題にスポットをあてて、京都府京丹後市にある「風のがっこう」というところに行くことになりました。

「風のがっこう」というのは、1997年の12月に京都で地球温暖化防止のために京都議定書が採択され、その京都議定書をうけてつくられました。地球温暖化防止のために「私たちは何ができるのか、何をなすべきか」ということを共に学んで考えていくために皆が研修できる施設です。もともとは、デンマークで最初にできた施設です。デンマークは、30年前エネルギー自給率が2%ほどでした。それが第1次オイルショックやイラン・イラク戦争などの原油危機を契機に石油に頼らない風力発電など自然エネルギーを使った発電に切り替えて、今では自給率が140%ほどに変わっています。

施設近くの大鼓山というところ

には、風力発電機が6基設置されています。「風のがっこう」もその名のとおり、風力発電などの自然エネルギーをテーマにした教育施設です。環境問題と言われると



何か堅苦しいイメージがありますが、全然そんなに難しいことを勉強しにいくわけでもないし、要は風力発電所を身近に感じてくれればそれでいいのです。

1泊2日で行く予定ですが、2日間ずっと講義を受けているわけではなく、2日目の朝からフィールドワークを予定しています。フィールドワークでは、森林体験、コンニャクづくり、豆腐作り、そば打ちなどを予定しています。普通の日常生活では体験できないものばかりなので、ぜひともどれかひとつはチャレンジしてみたいものです。

### 楽しい交流会も

また、楽しみの1つが交流会。初対面だからとか、性格が合うとか合わないとかいうこともあります。

今年のわいわいサミット実行委員会事務局長の萩野豪さん。職場は堺市役所で、住民とは直接会うことのない道路課に勤務。時間がある休みの日は映画に行くなど、一見おとなしそうな青年。6回目を迎える大阪自治労連青年部の恒例の行事「わいわいサミット」について聞いています。

気にせずに多くの青年と交流してみてはいかがでしょうか。いろんな人の出会いがあります。

日本の環境の実態、デンマークが自然エネルギーに懸けている実情、そしてまず自分にいったい何ができるのか、といったことを考えるきっかけにしていければいいなあと思っています。

## わいわいサミット2005

ところ：風のがっこう京都(京丹後市)  
とき：10月29日(土)午前8時出發～30日(日)午後7時大阪着  
申し込みは単組青年部または大阪自治労連青年部まで

## 編集後記

労働法制の改悪で出てきた「ホワイトカラーエグゼンプション」。ホワイトカラーの労働者には労働時間

ルールを適用せず、残業代も払わないというものの、違法なサービス残業が蔓延し年間3000時間をこえて働いて

いる人が6人に1人、過労死認定件数が年間150人の現状では、労働者の健康と命を奪うものでしかない。

2005.9.15

おおさかじちたいのなかま

第200号



わいわいサミット実行委員会  
事務局長

萩野 豪さん(堺市職労)